

令和四年歌会始御製御歌及び詠進歌

窓

御製

世界との往き来難がたかる世はつづき窓開く日を偏ひとへに願ふ

皇后陛下御歌

新しき住まひとなれる吹上の窓から望む大樹のみどり

皇嗣殿下

窓越しに子ら駆け回る姿を見心と和みてくるを確かむ

愛子内親王殿下

英国の学び舎に立つ時迎へ開かれそむる世界への窓

佳子内親王殿下

窓開くれば金木犀の風が入り甘き香りに心がはづむ

正仁親王妃華子殿下

幼子は新幹線の窓に立ち振りむきもせず川ながめゐる

寛仁親王妃信子殿下

成人を姫宮むかへ通学にかよふ車窓の姿まぶしむ

彬子女王殿下

蛍光灯映る窓辺に思ひだす大正帝の螢雪の苦を

憲仁親王妃久子殿下

車窓より眺むる能登の広き海よせくる波は雪降らしめつ

承子女王殿下

コロナ禍に換気もとめて閉ぢぬ窓エアコン眺めてしばし案ずる

御製

世界との行き来難がたかる世はつづき窓開く日を偏ひとへに願ふ

天皇陛下におかれましては、昨年引き続き新型コロナウイルス感染症の感染拡大の収束を願うお気持ちを歌に詠まれました。昨年は、人々の願いと、人々がこの試練を乗り越えようとする努力が実を結び、感染症が収束していくことを願われるお気持ちをお詠みになりました。今年は、このコロナ禍が収束したその先に、今大きく落ち込んでいる世界との人々の往来が再び盛んになる日の訪れを願われるお気持ちを詠みになりました。

皇后陛下御歌

新しき住まひとなれる吹上の窓から望む大樹のみどり

天皇后陛下並びに愛子内親王殿下ご一家には、昨年の九月、それまで長くお住まいになりました赤坂御所から、上皇上皇后両陛下が一昨年まで長年お住まいになりました吹上御所に御移居になりました。この御歌は、吹上御所に新たに御移居をされた皇后陛下が、上皇上皇后両陛下への感謝のお気持ちを新たになさりながら、大きな木々の緑深い御所からの眺めをお詠みになったものです。

皇嗣殿下

窓越しに子ら駆け回る姿を見心とみてくるを確かむ

COVID-19の感染拡大に伴い、多くの学校で分散登校や遠隔授業が行われていた時期がありました。また、部活動を思うように行うことができない時期も長く続きました。

秋篠宮皇嗣殿下は、毎年講義を行われている大学の建物から見える学校の児童生徒が、校庭で元気に過ごしている姿を目にされ、そうした時期のことを思い起こされながら、
一時の安心感を覚えられたそうです。

愛子内親王殿下

英国の学び舎に立つ時迎へ開かれそむる世界への窓

愛子内親王殿下には、学習院女子高等科二年生の夏休みに、イギリスの全寮制の私立学校、イートン校の寮に泊まり、語学研修を中心に博物館や史跡などを訪問して総合的な文化体験学習をする「イートン・サマースクール」にご参加になりました。

初めて外国の学校をご訪問になり、歴史の重みを感じさせる立派な建物を目の前にされた時、今、ここから世界が開かれようとしているというお心持ちになられました。約三週間にわたる英国でのご滞在への期待に心を弾ませるお気持ちをお詠みになったお歌です。

佳子内親王殿下

窓開くれば金木犀の風が入り甘き香りに心がはづむ

佳子内親王殿下が、秋のある日にお部屋の窓を開けると、金木犀の香りが風にのって漂ってきました。甘い香りにふれて嬉しいお気持ちになったことを歌にお詠みになりました。

正仁親王妃華子殿下

幼子は新幹線の窓に立ち振りむきもせず川ながめゐる

正仁親王妃華子殿下には、地方にお成りになった折に、乗車された新幹線で、小さな子供が窓際に手で掴まり、熱心に富士山の雄大な景色や川に集う鳥たちを眺めていた姿を思い出され、このお歌を詠まれました。

寛仁親王妃信子殿下

成人を姫宮むかへ通学にかよふ車窓の姿まぶしむ

寛仁親王妃信子殿下には、愛子内親王殿下を、ご幼少時より深い敬意と愛情を持って見守ってこられました。昨年、愛子内親王殿下におかれましてはご成年を迎えられ、寛仁親王妃信子殿下のお喜びは誠に大きいものであります。

ご立派に成長された愛子内親王殿下には、これまでも増して、より一層学問に邁進まいされておられます。ご通学のため、お車にてお住まいの御所を颯爽さつと御発ぐしになる際、お髪も綺麗きれいに整われて健やかな愛子内親王殿下のご様子を車窓越しにご覧になった寛仁親王妃信子殿下のご心境をお詠みになったお歌です。

彬子女王殿下

蛍光灯映る窓辺に思ひだす大正帝の螢雪の苦を

大正天皇の御製に、「修身習学在文園 新固宜知故亦温
勿忘古人螢雪苦 映窓燈火郭西村」とお詠みになり、学習院の学生にお示しになった漢詩があります。彬子女王殿下が研究室で仕事をされていた折、ふと窓の外をご覧になると、もうすっかり日が暮れていて、窓に蛍光灯が映っていたので、この御製を思い出されてお詠みになりました。

憲仁親王妃久子殿下

車窓より眺むる能登の広き海よせくる波は雪降らしめつ

車の窓からご覧になった能登の海と雪が降っている寒々とした情景をお詠みになったお歌です。

承子女王殿下

コロナ禍に換気もとめて閉ぢぬ窓エアコン眺めてしばし案ずる

コロナ禍で、窓は「開けるもの」から「開いているもの」に変わり、暑さや寒さを感じる度に、エアコンか環境保護か、と葛藤するお気持ちをお詠まれたお歌です。

召人 菅野昭正

きはやかに窓に映えたる夕虹は明日の命の先触れならむ

召人控 小島ゆかり

青き夜の窓をひらけばこの部屋とひとつながりの真冬の銀河

選者 篠 弘

一本のザイルたぐりて窓を拭く岩場をこなす若者の腕

選者 三枝昂之

夕映えの町が暮らしの町となり窓にひと日の灯が点りゆく

選者 永田和宏

閉ざすとき窓に光の残りみて呼べど応へぬ人ありわれに

選者 今野寿美

廃校の窓の下にもこの春の花あり土地の人が植ゑにき

選者 内藤 明

まづ窓の位置を決めたり夏の夜に父と作りし模型の小部屋

選 歌 (詠進者生年月日順)

富山県 西村 忠

劔岳三ノ窓より朝日さし富山平野に田植はじまる

福岡県 高木典子

海を見るうしろ姿の絵のありて時をり共にその窓に立つ

福岡県 田久保節子

柿わかばきらめくまひる窓あけて天道虫を風に乗せやる

香川県 藤井哲夫

出来た子もそれなりの子も働いて働きぬいて今日同窓会

東京都 三浦宗美

夫逝きて十年を過ぎし今もまだ窓のそとには灰皿のある

青森県 高橋圭子

斜陽館に少しゆがんだ窓ガラス津島修治も見てゐたはずの

東京都 川坂浩代

パソコンの小さき窓にそれぞれの日常ありて会は始まる

茨城県 芳山三喜雄

ベランダに鯉幟ゆれる窓を指し君は津波の高さ教へる

東京都 伊藤奈々

窓を拭く人現れてこの場所がほぼ空だったことに気が付く

新潟県 難波來士

窓の外見たつて答へはわからない少し心が自由になれる

佳 作 (詠進者生年月日順)

岡山県 武藤孝夫

窓越しの日射しもなでて探りゐし点字が指に読め始めたり

青森県 佐々木冴美

職引きて帰農せし夫は窓開けて空うかがふを慣ひとなせり

茨城県 園部啓子

一グラムに満たないやうな虫なのに落下の音を窓辺に残す

静岡県 久保田和子

窓開けて老いた二人の「鬼は外」少し豆食みひと冬を越す

石川県 早川晃治

それぞれの窓それぞれのさやうなら汽車は静かにホームを離れる

福島県 信太政子

小窓より入り来る風の心地よさ今日は五月の名もなきいち日

千葉県 西尾敬子

西日受くる老人ホームの窓辺には見えぬがきつと母が手を振る

東京都 田畑秀樹

君と見る窓の外には君がゐて君の隣の僕を見てゐる

徳島県 佐藤枝世

夫が刈る草のにはひに落ちつかず牛の啼くなり無双の窓に

東京都 久和鏡子

夕暮れの窓に小さき影跳ねて微かに聞こゆなはとびの音

愛知県 甲斐千尋

鶴舞駅陽をうけ車窓はきららなる数多の傷が光をつかめり

新潟県 神保ひなた

雨続く教室の窓水滴が一つになつて加速して行く